

# 幼児に適したおもちゃ（パズル）を 1時間で作ろう

中学生が作って楽しく、幼児がやってみて幼児も楽しい、1時間でできるおもちゃ（パズル）です。紙さえあれば、特別なものは必要ありません。しかし、いろいろな発想力が必要です。

## 1. はじめに

新学習指導要領では、「A 家族・家庭と子どもの成長」の中で、「イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること」とされています。しかし、第3学年で授業を行うとすれば、授業時数は技術・家庭科として35単位時間と、非常に少ないのが現状です。このような時数のなか、おもちゃの製作をするためには、ある程度の時数が必要です。どのような題材が幼児に適し、かつ中学生が楽しく短時間で取り組めるものなのか、いろいろやってきました。

次に紹介するのは、1時間でほとんどの生徒が作成でき、遊ぶためにお互いに関わり合いたくなる、少し頭も使うパズルです。

## 2. 準備物

- ・ 白い紙1枚・・・A  
(A4くらいの大きさが作りやすい。)
- ・ 白い紙Aの2分の1枚・・・B
- ・ ハサミ ・マジックや色鉛筆(色をつけるため)

## 3. 作り方

- ①紙Aを二つに折る。
- ②さらに二つに折り、折り目をつけ、①の状態に戻し、折山から切り込みを二つ目の折り目まで入れる。  
(切り込みは、4つから5つ位が適当なようです。)

③紙Aを全部開く。

④紙Aと同じ大きさの紙を二つに切り、紙Bを作る。

⑤紙Bを二つに折り、切る。

⑥紙Bを、紙Aの切り込みの間に、交互になるようにはめ込む。

⑦紙をたたんだ状態で、場面1の絵を描く。

⑧紙を開き、開いた状態で、場面2の絵を描く。

## 4. 遊び方

場面1を見せながら、その場面についての説明や質問を幼児に向かってし、幼児の反応を見る。

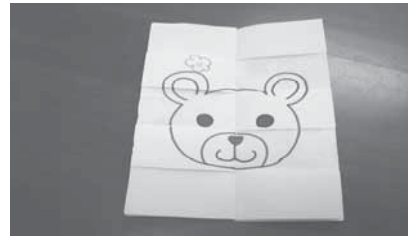
その後、パズルの端を素早く引っ張って場面2を見せ、その場面についての説明や答えを言う。

## 5. このパズルの楽しいところ

- (1) 最初に教師が見本のパズルをやってみせると、生徒はどうして瞬間的に描かれている絵が変わるのか分からず、不思議に思います。そして、よくわからないまま、パズル本体を作りあげ、やってみて、画面が瞬間的に変わるのを見て、感動の声をあげます。
- (2) 二つの場面を考える過程で、いろいろな場面を考え、工夫することができます。発想力が問われます。
- (3) 幼児に適した絵や文字、記号など、いろいろな表現方法を活用することができます。

- (4) できあがったパズルを誰かにやってみて、やってみて相手の反応を知りたいという感情が高まり、自然と友達同士で楽しくやり合うことができます。
- (5) 実際に幼児にやってみると、中学生の反応と同じく、びっくりしたりおもしろがったりと、とても好評です。

【生徒の作品例】



場面 1

森の中にくまさんがおりました。くまさんがリンゴを食べると・・・

## 6. おわりに

中学生にとってこのパズルは、1時間で簡単にできるおもちゃとしては、パズル自体に対する驚きがあり、パズルの二つの場面を考える楽しみがあります。また、でき上がったパズルを誰かにやってみて相手がどんな反応をするか見るという楽しみがあり、中学生にとってとても適した題材のようです。紙とハサミ、マジック等があればよいので、準備も簡単です。



場面 2

くまさんは、アツという間に、うさぎさんにかわってしまいました。

